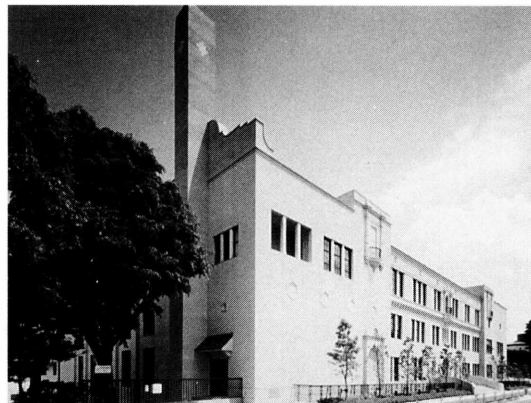


東洋英和女学院中学部・高等部校舎

所在地 東京都港区六本木5-14-40
用途 学校（中学校・高等学校）
竣工 1933年
復元 1996年
所有者 学校法人 東洋英和女学院
改修設計者 三菱地所株式会社一級建築士事務所
改修施工者 株式会社 大林組



当女学院は、都心六本木とは思えない閑静な雰囲気の街区を形成する鳥居坂に面して位置する、歴史を誇る名門校である。

1933年（昭和8年）米国人建築家であり宣教師でもあったヴォーリズの設計により、スパニッシュスタイルのミッション・スクールとして建てられた。

今回の改修・復元に於いては、60年以上経過している竣工当時の建物のイメージや精神を受け継ぎ、忠実に再生することに最大の配慮がなされた。

現代の中学・高校は新しく多様で且つ、多大な機能をもっているがそれらに旧校舎が持っていた機能を、内外のイメージを最大限に残しながら統合して行く計画は、今回見事に成功したと云えよう。

建物全体の正面と云える鳥居坂側のファザード再生の為、綿密な資料の検討と時代検証が行われ、躯体打ち込みのGRC製の外装レリーフの採用により、見事往時を再現し、街区形成に重要な役割を果たした。旧校舎と同じ石材やスチール・サッシュの採用も景観優先の意向が十分にうかがえる。

チャペルや部長室、大講堂も復元の為、最大限の努力が払われた。特筆すべきは大講堂であり、旧講堂のプロセニウム・アーチを復元して採用、ステンドグラスにも十分配慮がなされている。録音性能を含めた音響性能も極めて高く荘厳な雰囲気の醸成に成功している。

内部空間全体は素材・色彩・納まり・施工精度等の統一感が秀逸で、ゆったりとして気持ちよく、学校建築として極めて快適で質の高い環境を作り出している。東洋英和のスクールカラーであるえび茶系のカーペット色で統一された建具が一層それらを引き立てている。

視聴覚・コンピュータ教室等も充実しており、照明のグレアレス化を始めとする周到的照明計画も女子校の品格のある雰囲気を作り出している。

建築設備面では改修、更新、増強を平行して行う中、既存を最大限活用しながら室内環境の向上を目指し計画され、施工された。更に、維持管理面でも日常のメンテナンスは良く行き届いており、中長期の維持保全計画に於いても責任者を中心に、設計・施工・メンテナンスの各関係者を交え広く意見を聴取しながら作成していることも評価出来る。

大きなヴォリュームの南面グラウンド側ファザードの表現は、正面側とややバランスを欠いており、更に一工夫欲しかったとの意見も多く出されたが、当計画は長い歴史の中で巣立った卒業生グループからの熱い支援に十分応えうる心の原風景を再現し、街区の保存・再現に貢献した、優れた改修・復元計画であったと云える。